

今、市民がデモクラシーをどう深め、子どもたちの人権をどうサポートしていくのか

姜尚中氏講演会

基調講演「デモクラシーは手間がかかる」

日時:9月25日(日)1時から4時半

場所:姫路市文化センター(小ホール)

お話しいただく内容(予定)

- 姜教授の考えるデモクラシーとその意義
- 現在、デモクラシーを実際に実感しにくい社会になっているのはなぜか
- デモクラシーを市民がどう深め、どう行動していくか

- 第一部 13時～ 開始
13時10分～ 基調講演 東京大学教授 姜尚中さん
「デモクラシーは手間がかかる」
- 第二部 14時45分～ デモクラティックスクールまっくらくろくすげ
実践報告
(まっくらくろくすげ代表 黒田喜美より)
- 15時10分～ パネルディスカッション
姜尚中さん
黒田及びまっくらくろくすげ卒業生(予定)
コーディネーター
小野洋さん(スロースペース・ラミ代表)
- 16時10分～ 他の活動団体による活動紹介
NPO法人フリースクール「For Life」など



姜尚中さん講演内容

1. 歴史的な流れ 1960年代から現在まで

●1960年代 政治の季節
フランスの5月革命、日本国内でも学生運動が活発

●1970年代 ミーイズムへ移行。個人生活を自由に楽しむ。脱政治。政治的なことに関心がないほうが生活が安定する。右や左など極端な政治的な発言を嫌う風潮、右肩あがりの経済、若者の雇用も売り手市場、老後まで生活が保障されている。

●1980年代 イギリスサッチャー政権そしてアメリカレーガン政権によるネオリベリズム。

自由な競争を拡大して、自己責任による福祉の切り捨てなど。

●2000年代 日本にもネオリベリズム(新自由主義)が小

泉政権により大きく導入される。市場開放主義の資本主義であり、強いものが弱いものを淘汰する考え。

危機(クライシス)の在りようが以前と大きく変わった。

グローバル化がすすみ、世界のほかのところで起こった危機が私たちの日常の基盤を大きく揺るがすことがある。リーマンショックやギリシャの破たんなど。

2. 民主主義は制度・運動・思想である

●自分たちが自分たちの自由な言論によってつくられる民意に基づいて治めていくことがデモクラシーである。

●自由主義や資本主義などの「イズム(主義)」のようなものとは、「デモクラシー」は違う。「自治される人と自治する

人が同じ」というしくみ(制度)のことである。

●制度自体では100%善でも悪でもない。制度をいかにするために、絶えず権力を監視して、民主的な手はずを踏んで政治が行われているか確かめる、市民運動などをおしてコミットしていくことが必要。どんなデモクラシーの内実とするか思想をもつ

●地域で小さなデモクラシーを充実させていくことが大切。日本でもデモクラシーを根づかせようと、してきた人々がいる。たんにアメリカからあたえられたものではない。いつの時代もデモクラシーを大切にしていこうという人々がいる。

3. 現代の問題点・危険性

●デモクラシーがある定着した国では、大切さがわかりづらくなる。失わないように、地域での様々な市民運動を通して、小さなデモクラシーを実践していくことが必要。

●グローバル化により、小さなデモクラシーが活発なところでも国家破たんなどによって、人々の生活が破壊されることが生じてきた。

●そのためにも地域で生きながらも、世界がどちらを向いているかにも関心をもったほうがいい。

●ネオリベリズムによる「自己責任」とは国は個人の自由の権利は守るが、結果は何も助けないというもの。

福祉が切り捨てられていく。